

## 昭和14年の栄（錦三）と大須の町の姿 —「防火改修区域見取図」を読む

### （1）北見さんから連絡をいただいたきっかけの本

昭和14年9月に名古屋市によって作成された

- ①「東区栄町防火改修区域見取図」
- ②「中区大須防火改修区域見取図」

の二つの地図を、翻刻して解説したもの。

名古屋市市政資料館の戦前の行政文書の中にありました。

戦時下の防空政策として行われた、木造建築密集地域の防火のための改修工事の基礎調査の図で、一軒一軒の建物とその職業が書かれています。

大須と栄は戦前の名古屋の中心的な繁華街でしたが、昭和20年3月12日19日の空襲で焼かれ、戦後大きく姿を変えました。

### （2）東区栄町防火改修区域見取図

現在の中区錦三丁目の区域。錦三丁目は当時東区でした（本町通の東が東区）

北は桜通り 南は広小路 西は御幸本町通り 東は大津通

### （3）中区大須防火改修区域見取図

現在の大須二・三丁目の区域。

北は赤門通り 南は岩井通り 西は常盤町通り 東は大津通り

### （4）表紙に載せたのは、吉田初三郎作の描いた昭和12年の「名古屋市鳥瞰図」

この年に近代都市名古屋の骨格できました

### （5）現港区役所付近で開催された昭和12年汎太平洋平和博覧会

【開催日】 昭和12年3月15日~5月31日

【参加国】 29カ国（地域・都市単位を含む）

【入場総数】 480万人（1970年大阪万博まで最大）

（東京博覧会が戦争で中止されたため）

7月7日盧溝橋で日中両軍衝突（日中戦争開始）

(6) 汎太平洋平和博覧会の開催に向けて名古屋市は近代都市としてその姿を大きく変えました。

名古屋駅営業開始

当時の名古屋東端の東山に 3月3日 植物園 24日 動物園開園

名駅から動物園まで市電を走らす

名古屋観光ホテル (昭和12年) 徴兵保険ビル (昭和14年)

十一屋 (昭和11年) 明治屋 (昭和13年)

(7) 名古屋新聞昭和14年4月6日付

「東京銀座より高い」 「ビル街の貸室払底」

(8) 日中戦争開始による軍需工業都市化

	昭和10年	昭和14年	倍率
工場総数	4008	6166	1.5倍
金属工業	362	743	2倍
機械工業	815	1683	2倍
職工数	10万人	19万2000人	2倍
大工場職工	3万2000人	8万7000人	2.7倍

総人口 108万人 125万人

(「名古屋市における工場生産の概況とその主なる工場」

名古屋市総務局統計課 昭和18年2月28日)

(9) 名古屋新聞昭和14年3月19日付

「工場は郊外へ」 「名古屋市内は最早困難」

**蘇る！空襲で燃える前の栄（錦三）の姿**

**「東区栄町防火改修区域見取図」を読む**

(1) 東区栄町防火改修区域見取図

北一桜通り

西一御幸本町通

南一広小路通り

東一大津通線

◎本では8分割して掲載

## (2) 南北の栄の北の町 富沢町・針屋町

富沢町は明治の初めの頃までは、「庄屋衆商人宿」という庶民的な宿や料理茶屋のあった町でした（明治4年『名越各業獨案内』）。

玉屋町の宿屋街が無くなったあともこの町は旅館街として存続しました。

この地図には、

二丁目に「旅館海月」「旅館栄太楼」「扇屋旅館」、

三丁目に「旅館（舞鶴旅館）」「井筒旅館」「福住旅館」「大松旅館」、

四丁目に「旅館長広館」が書かれています。

それと並んで、料理の店が多いのも特徴です。

「芳蘭亭」「料理弥生」「料理おきな」「料理よし喜」「料理芳廣」「料理登女木」「料理ちゆきん」「料理花月」「偕楽亭」「料理富花」

## (3) 東西の町筋 東袋町・東本重町・蒲焼町

宮町筋の南の東袋町筋に入ると町の様子は変わってきます。商売の書かれた店は少数派となり、「商家」が16軒、「住家」が29軒あります。町全体として商売の町という雰囲気は薄くなります。

変わって増えてくるものがあります。

東袋町二丁目の南側に、

「琴月置」「新英置」「丸ふし置」「若泉置」「広藤置」の5軒。

三丁目に入ると今度は北側に「豊安田置」「安田置」「梅櫻妓置」の3軒

路地の奥に「大廣置」「新中村置」「伊□□置」の3軒合計6軒の

「○○置」という店が現れます。名前が独特で美・貴・若・松・寿等の目出度い字を使っていることが特徴です。これらは芸者の置屋です。

東本重町筋に入ると、置屋は8軒に増え、

蒲焼町筋は置屋が22軒となります。

## (4) 富沢町と蒲焼町筋の交差するあたりにはカフェが多い

北から「赤玉」「アドリア」「銀星」「ミュンヘン」「メトロポリタン」「馬車屋」、ここはカフェの町？と言いたくなるほどです。

針屋町に「平凡」「長崎」「丸玉」鶴重町に「明星」

蒲焼町筋に「クローバー」「喫茶カフェ」と12軒もあります。

しかも、これらのカフェで1年前の昭和13年の「名古屋商工案内」で

確認できたのは、富沢町の「メトロポリタン」「銀星」「馬車屋」と針屋町の「平凡」の4軒だけです。

「名古屋商工案内」には、それ以外に針屋町に「あづま」、鶴重町に「ニューイーグル」富沢町に「サロンシンルイ」が書かれています。この業界の急成長と変化の激しさを示しています。

### (5) 針屋町と鶴重町

「漆器商」「被服商」「陶器商」「呉服屋」「骨董屋」「薄板屋」「写真材料店」「機械商」「金物屋」「塗料商」「紙屋」「綿布商」などの古くからの商家と思われる店が多くあります。

同時に、南に行くに従って芸者置屋と料理屋とカフェーが広がっていることがこの地図から読み取れます。

### (6) 芸者置屋はこの地図全体で100軒

(東区栄町防火改修区域に書かれた総戸数1039戸だから10%に当たる)

#### 【商家に変わって増える店】

「料理屋」「酒場」「オデンヤ」「氷問屋」  
「結髪」「洗張屋」「紋染抜屋」「シミヌキヤ」  
「銭湯」「人力車」「タクシー」「写真商」

#### 【芸妓団体】浪越連・中券番連

針屋町の浪越会館は浪越連の建てた建物、事務所と稽古場。

### (7) 『大名古屋便覧』昭和12年度版によれば

名古屋の芸者総数は	2139名
碁盤割区域では盛栄連	81名
中券番連	345名
浪越連	409名

この中で古いのは盛栄連で、上長者町を中心とする碁盤割の北の方の芸妓連で、人数は多くないが芸の質の高さを誇っていた。中券番連と浪越連は広小路を挟んで南北に広がり当時名古屋最大の花街を形していた